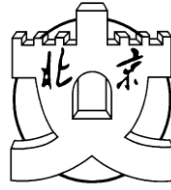


かささぎ



北京日本人学校
学校通信 第10号
平成31年2月28日
校長 栗本 和明



「当たり前の日常」の尊さ

父母会執行部会長 藤井澄子

6月中旬、突然の会長交代連絡を受けてからあっという間に半年以上が経ちました。補欠上位であったため役職に就くことはある程度覚悟していたものの、まさかの会長職。衝撃を受けつつも「決まったからには職務を全うしよう」と心に決め、二学期を迎えました。

場所も知らなかった父母会室に初めて足を踏み入れた時のアウェー感を、今でもはっきりと覚えています。しかし既存の執行部メンバーに暖かく迎えられ、運動会、お弁当業者変更、次期役員選出等々密度の濃い日々を送っているうちに、気が付けば父母会室を「ホーム」と感じられるようになっていました。高学年・中学部保護者である執行部メンバーの視点は、低学年の子を持つ私にとって非常に新鮮であり、普段あまり接点のない学年との交流という点においては、児童・生徒のみならず父母会活動を行う保護者にとっても大変有意義であると感じています。

役員として学校に足を運ぶようになって、改めて気付いたことがあります。子ども達が毎日当たり前のように享受している学校生活は、多くの人々に支えられて成り立っていること。より良い学校運営のため、お忙しい中お時間を割いていただいている理事の方々、異国の地で日本同様の教育環境を提供しながら、北京ならではの行事や校外学習を企画・実行して下さる先生方、学校教育・父母会活動にご協力いただいている保護者の皆様、子ども達のためにご足労いただき様々な活動に携わっていただいているボランティアの方々。不慣れな地での学校生活を、これらすべての人々が支えて下さっています。

我々父母会もその一助となれるよう、日々活動しています。広報委員会発行の広報誌は、北京を離れた後も楽しかった学校生活を彷彿とさせてくれるでしょう。先日の代表委員会（校長先生、教頭先生、執行部、各委員長参加の定例会議）で、校長先生から印象的なお話を伺いました。行事や校外学習に参加した際に、撮影で同行している広報委員の皆様が先生のフォローや子ども達への声かけ・見守り等をされている。そのおかげでスムーズに事が運び、子ども達も楽しそうだと。とても助かっていてありがたいとお言葉を聞くにつけ、委員である保護者と学校の相互協力関係が出来上がっているなと感じます。

文化体育委員会のJ S B Tシャツや運動会記念品、卒業記念品も北京日本人学校での大切な思い出となるでしょう。特に今年度の運動会記念品は、委員会の皆様が一から企画されたJ S Bオリジナルリストバンドでした。今までにないものを新たに作り上げる苦労は、想像に難くありません。お揃いのリストバンドで一致団結した運動会は、子ども達にとって忘れられない思い出になったのではないのでしょうか。

通学安全委員会は、学校と密接な関係を築きながら子ども達の安全を守っています。海外という状況下において、我々保護者の最大の関心事は子どもの安全をいかに守るかということです。通学をめぐる状況は今後変化していくことと思いますが、学校や保護者の皆様と協力しながら、どんな時も子ども達の安全を第一にこれからも活動していただきたいと思えます。

「当たり前の日常」である学校生活は、多くの人々の協力と支えによって実現している。更に一步進んで、子ども達が北京の地で過ごした貴重な日々を、より良い思い出として残せるよう尽力されている方が沢山いらっしゃる。こうした事実によって改めて気付かされたとともに、この「当たり前の日常」がいかに尊いものであるかを実感した日々でした。

役員の任期を終えた後も、この経験は私自身にとって大きな糧となることでしょう。父母会活動にご協力いただいたすべての皆様、本当にありがとうございました。

離任者あいさつ



山中 正明

39年間の教員生活で、最後の最後に卒業する学校が北京日本人学校です。初めて小学生のいる学校で勤務できたことが、この上ない喜びでした。私の職場は職員室。パソコンを見ながら、打ちながら1日中座っていたら、少しおかしくなってしまう。もう一つの職場である、ローズデールホテルとの間にあるT字路こそが日々の生きがいのあったのかもしれない。児童・生徒だけでなく、送迎の保護者の方、毎日同じ時刻に通る中国の方、多くの方々とあいさつをかわしたり、会釈をする毎日がとても楽しみでした。多くの方々に支えられてきた2年間。変化の速い中国で、負けないくらいどんどん成長していく子どもたちに囲まれて本当に幸せでした。ありがとうございました。

高原 清史

ついにこの時がやって来てしまいました。あっという間の3年間。今、感じることは、多くの出会いへの感謝、そして、この北京日本人学校で教職に携わることができたという誇りです。素直でたくましい子どもたちから計り知れないパワーをもらいました。一人一人と出会うことができ本当によかったです。また、保護者の皆様からも言い尽くせない励ましをいただきました。その温かい心遣いは、ワールド級でした！私は今後も、北京日本人学校の応援団であり続けます。いつか再会できることを願い、岡山で頑張っていきます。今まで本当にありがとうございました。

丹野 真夢

北京での3年間は、私にとってかけがえのない宝物です。元気で明るい子どもたち、いつも温かく見守ってくださる保護者の皆様、そして、チーム北京日本人学校！いつもたくさんの人に支えられ、パワーをもらいました。北京という場所が、今ではふるさとのように感じられるのも、子どもたちと過ごした楽しくてきらきらした日々があったからだと思います。北京での素敵な思い出は絶対に忘れません。この思い出を胸に、日本でも頑張っていきたいと思います。3年間ありがとうございました。北京日本人学校の皆さん、大大大好きです！

森 由貴

北京に来てあっという間に2年が過ぎました。この学校で過ごした毎日は濃く、たくさんの思い出が詰まった場所を離れると思うと、寂しさでいっぱいです。ここで元気に過ごせたのは、元気いっぱいの子供たち、温かく見守っていただいた保護者の皆様のおかげです。この学校で出会えた、子供たち・保護者の皆様・先生方との思い出は一生忘れないでしょう。そして、中国という国がさらに好きになりました。とても幸せな2年間でした。またどこかでお会いできることを心の中で楽しみにしながら、新たな環境で頑張ります。本当にありがとうございました。

多田 久美子

本当に楽しく充実した3年間でした！夫と娘・息子を日本に残し、単身で赴任した北京。初めての一人暮らしにホームシックになりました。でも、夜に熱が出て、出勤できるかなと不安だった時も、学校に来ると、元気いっぱいの子供たちにたくさんのエネルギーを分けてもらって、本当にうそのように元気になりました。前向きで気持ちの優しい子供たち、温かい声をかけてくださった保護者の方々、いつも助けてくれた先生方・スタッフの方々。3年間、本当にありがとうございました。北京日本人学校の思い出は、私の宝物です！

吉野 美穂

着任当日、どんな子供たちが待っているのだろうとドキドキしていた私の目に、きらきらした瞳が一斉に飛び込んで来て、感動したことを今でも覚えています。ここでの日々はとても楽しく、かけがえのない一日一日となりました。そして私は、JSBの皆さんのことを羨ましく思っています。中国という、目まぐるしく成長と変化を遂げる国で、多感な青春時代を過ごせるからです。いつか、国際社会で活躍する皆さんとまたどこかでお会いしたいなと思います。ずっと応援しています。保護者の皆様には、赴任当初から温かいお言葉がけをいただき、感謝の気持ちは尽きません。本当にありがとうございました。

松本 由貴

着任して間もない頃、自分の生活すらままならずこれから始まる北京での生活に不安を抱えていました。そんな私たちを北京日本人学校の子供たちが笑顔で迎えてくれ、不安が大きな期待に変わったことを今でも昨日のこのように覚えています。この3年間、素直で優しい子供たちと温かい保護者のみなさま、頼りになる理事会の皆様を支えられ、今日まで充実した日々を送ることができました。4月から北京日本人学校の子供たちが一人一人のよさを発揮し活躍できるよう、日本から応援しています。3年間本当にありがとうございました。

釜崎 孝一

実は私が北京日本人学校への赴任が決まる3日前、日本のテレビニュースを通じて、北京日本人学校の子どもたちのことを知っていました。2015年12月8日、北京市で初の紅色警報が発令され、市内の小中学校が臨時休業となったのです。世界にはこんなに過酷な生活環境でもひたむきに頑張っている子どもたちがいるんだ。彼らのような子どもたちの為に少しでも力を尽くしたい。テレビを見ながら心熱くしたのを今でも覚えています。そして、思いが通じたのかこの学校への赴任が決まったのです。

この3年間、素晴らしい学校職員に支えられ、日々の教育活動を豊かな気持ちで送ることができました。これもひとえに保護者の皆様のご理解ご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。そして何より、誠実でひたむきに頑張る子どもたちがいたからこそ成し得たことだと思います。最後に鹿児島弁で激励の言葉を送ります。また世界のどこかでお会いしましょう。『チェストー！！キバレヨ！！北京日本人学校(≧▽≦)』

酒主 毅紀

3年前、北京首都空港に着いたときに見た舞い上がる柳絮のことを昨日のように覚えています。

北京日本人学校に来てあつという間の3年間でした。様々な場所から集まり、異なる年齢の児童生徒がいることで学校にはいつも活気があり、北京のパワースポットだと思っています。今後も遠くから北京日本人学校を応援しています。最後に、児童生徒たち、保護者の皆様、そして学校を支えてくださっている皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

鈴木 隆太

北京日本人学校には5年間お世話になりました。この5年間は、長かったような短かったような。でも、振り返れば、ここでの充実した日々の、重みばかりが残ります。ここで出会った皆さんはこれからどのように過ごしていくのでしょうか。やっぱりちょっと寂しいです。今の世の中「つながり」を大事にする社会ですから、きっとどこかで再会できるという希望と、ちょっぴり感傷的な気分の両方が、私の心をギュッとしめつけます。5年間どうもありがとうございました。また地球のどこかで会いましょう。

田村 美佳

北京日本人学校にはじめて足を踏み入れたときのワクワクした気持ち。元気に英語の歌を歌う子どもたちの表情。授業中元気に挙手をする小学生。英語劇のプリントを持つ手が震えている、緊張とやる気いっぱいの子供の参観日。慣れないことにも挑戦してみようという前向きな上級生たち。2年間のすべての光景が私にとって日々の力になりました。明るく素直な中学生と元気な小学生、いつも支えてくださった保護者の皆様に大変感謝しております。今までありがとうございました。忘れまいこの日をいつまでも。



ただいま 何人？

小学部 平成31年2月28日現在

小学部				平成31年2月28日現在			
	男子	女子	合計		男子	女子	合計
1-1	8	8	16	4-1	18	11	29
1-2	7	8	15	4-2	20	10	30
1-3	7	9	16	5-1	10	6	16
2-1	9	10	19	5-2	12	5	17
2-2	11	11	22	6-1	10	11	21
3-1	11	14	25	6-2	11	11	22
3-2	11	14	25	小総計	145	128	273

中学部

中学部			
	男子	女子	合計
1-1	5	6	11
1-2	6	5	11
2-1	9	6	15
2-2	8	5	13
3-1	7	6	13
3-2	5	5	10
中総計	40	33	73
総合計	185	161	346